

「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取組分野：【交流】

1. 都道府県、市町村 徳島県^{みなみちよう}美波町
2. 事業者名 伊座利の未来を考える推進協議会
3. 取組みの名称 都市との交流を通して学校と地域の灯火を守る
4. 取組概要等

概要

かつて陸の孤島と称されていた時代に400人が住んでいた伊座利も、過疎・少子・高齢化が進展し人口は100人ほどに減少した。人口の減少とともに子供の数は激減し、いつしか小学校と中学校分校の併設校（通称：伊座利校）の統廃合が話題とされるようになった。学校が無くなってしまふと集落の存亡に関わると危機感を持ち、伊座利存続のシンボルとして学校の存続を掲げ、「学校の灯火よ永遠に！」を合言葉に、**伊座利校への児童・生徒やその保護者の転入を呼びかける「おいでよ海の学校へ」という交流促進イベントを住民手づくりで開催した。**

これは、伝統漁法の大敷網漁やクルージング体験、磯遊びやカヌー体験、テナガエビとり体験などを通して伊座利を体と心で体感してもらふ海の学校1日留学体験などを行うもので、これまでに12回開催した。

この活動を通して、地域内での産業や環境、そして住宅問題などの課題を地域全体で考え、総合的な地域づくりを行う必要を感じ、**子供からお年寄りまで全住民で構成し、町内会、漁協、学校、婦人会など地域内のあらゆる団体を融合する地域づくり活動団体「伊座利の未来を考える推進協議会」**を平成12年4月に結成した。

協議会では、地域の持続を図っていくためには、内部努力のみならず、外部からの協力や知恵などの反映が不可欠と考え、**多彩な交流活動を地域内外で展開。関西・関東・徳島市内などを中心に「伊座利の未来を考える応援団」(団員約600名)を有している。**

また、自然の恵みにより成り立ってきた伊座利の環境を守っていくため、定期的な海岸や河川・道路などのクリーンアップや植樹活動を行っている。ほかにも「ゴミ・タバコなどのポイ捨てはやめよう」規定を独自に設け、違反すると公衆トイレの清掃という罰則を設けるなど、アイデアを活かした美化活動が展開されている。

このほか、伊座利漁協では地域資源である海藻に着目し、加工品生産を行う「アラメ加工工場」を設置し、新たな雇用機会の創出にも取り組んでいる。

活動の規模

項目	H13	H14	H15	H16	H17
イベント	120	120	120	150	250
参加者	解説 単位：人 「おいでよ海の学校へ」参加者数				
人口数	104	113	112	129	123
	解説 単位：人 1ターンによる人口増				
高齢化率	38.46	31.86	31.25	29.45	27.64
	解説 単位：% 若年層の定住により大幅に改善				

活用している地域資源

- ・ 山、川、海などの自然景観
- ・ 地域の産業である漁業や水産物
- ・ 伊座利地区に根付く風土、気質や郷土愛
- ・ 地区外に居住する応援団

地域活性化のポイント

全国からのイターン者や若者の定住化などにより、人口増、児童・生徒数の増加、高齢化率の低下（H13年：38.46% H17年27.64%）を実現した。

それに併せて、秋祭りの太鼓の復活や親密な応援団員やファンの増加、交流人口の拡大などの現象がみられ、地域に賑わいが戻りつつある。

また、水産資源を活用した新たな特産品づくりや、雇用機会の創出に取り組むなど活発な活動が展開され、そのことが地区出身者の郷土愛をますます強めることとなっている。

事業の今後の展開方向

伊座利地区が小さくともコミュニティのある地域として将来にわたって存続していくためには、

地域の成立の基礎でもある漁業の低迷を踏まえた水産振興のあり方

活動に応じて徐々に増えてきている若者定住人口イターン人口の増加に対応した就業所得機会の創出

地域の今を担う中核メンバーの意識を次の世代にどのように受け継いでいくかという点に要約される。

こうした課題を解決していくため、

継続は力なりの諺に違わず、環境・交流をキーワードとするこれまでの活動の継続
時代潮流に即した新たな取組

地域力、住民力のさらなる向上

などにより、時代変化に対応しうる自立した地区へと進化していかなければならない。そのためには、従来型の地縁や血縁のコミュニティのみならず、広く地域の外の志を共有する都市住民等との共生や協働の関係づくりをさらに進める必要があり、その上で、漁業をはじめとする、地域の生活文化、産物、自然、といったあらゆる地域資源を経済効果に結びつけていく。

